

旭図鑑(6センス)  
話法集

## ステップ1

①

こんにちは。  
今キャンペーン中でくじ  
引いてもらってます。  
(くじを引いて頂く)  
あ、ありがとうございます。  
〇〇賞です。次回お届け  
にあがりますね。

②

あと、今皆さんに女性が  
仕事をする事をどう考え  
るか、お聞きしているん  
です。  
お願いします。

③

(Q1.~Q5.まで聞いて)  
ありがとうございます。こ  
ちらも(名前・生年月日・  
住所・TEL・携帯・メール・  
ご家族の名前・生年月日  
の箇所を○で囲って)こ  
ちら、お願いします。あり  
がとうございます。

④

では、次回くじの賞品と  
私達が発行している『旭  
ニュース』をお届けしま  
すね。  
見て下さいね。  
あと、今皆さまに現状の  
公的年金についてお話し  
させて頂いています。次  
回10分程お時間下さい  
ね。  
アポカードへ

①  
先日はありがとうございました。  
こちらがくじの賞品です。

②  
そしてこちらは私達が月1回発行しています「旭ニュース」です。メンバーは女性ばかりで、助け合いながら仕事をしているんですよ。(ちらし等を渡しながら)ご参考までにご覧になって下さい。

③  
因みに〇〇さんは公的年金ってご存知ですね。  
「はい」  
殆どの方が厚生年金や、共済年金・国民年金等に加入していらっしゃいますよ。  
「はい」

④  
そして、保険料の方もお支払いしていらっしゃるよ。  
「はい」  
そうですね。それでしたらなおさら仕組みについて、もっと詳しく知っておく事が重要だと思います。

⑤  
(顔を見ながら)  
この資料は、公的年金の仕組みがわかり易く書いてあります。

⑥  
1・老齢年金…65歳以上の生活の補填  
2・遺族年金…ご自身が亡くなられた後のご家族への保障。  
3・障害年金…病気や事故で、ご自身に一定の障害が残った時の保障。

⑦  
【老齢年金コース】  
公的年金にご加入なさっていると、この3つの保障が国から受け取ることができるんですね。〇〇さんにとって、今お知りになりたい公的年金は老齢年金ですか?現在の保障でしょうか?

⑧  
【遺族・障害年金コース】  
〇〇さんにとって、老後も今も、とても気になるところでしょうか、お子さまが小さい間は今現在のお話からしていきましょう。  
(遺族・障害年金へ)

⑨  
ご存知と思いますが、社会保障の税一体改革が決まりましたね。消費税が昨年4月から8%、2017年4月に10%への引上げが決まり、その一部が公的年金に使われる事になりますが、そちらもご存知でいらっしゃいますか?「・・・」

⑩  
そうですね。保険料や積立金だけでは不安だった老齢年金の基礎年金も国庫負担割合を1/2にするので安心出来るという事です。

⑪  
そして、平成27年共済年金が厚生年金と一元化されますね。  
「あー」

⑫  
ただ、これだけで少子高齢化社会に対応できるとは思えませんよね?  
そうですね?  
「・・・」  
そうですね。

⑬  
こちらの資料は総務省の資料ですが、1990年人口1億2361万人。  
緑の部分、20歳から60歳が生産人口。要するにお金を稼ぐ世代ですね。

⑭  
オレンジと紫は老人人口。支えられる世代。青は19歳以下のこれからを支える世代です。この時代は、5.1人で1人のご老人をささえていたのですが、

⑮  
2030年、あと15年後には1.7人で1人を支えるようになります。2060年、あと45年後、ある程度数字が確定しているのですが、1人で1人を支えるようになります。

⑯  
あと45年後おいくつですか?もう死んでいるから関係ないっていう方もいらっしゃるのですが、この2060年の平均寿命、男性が86歳・女性が91歳です。

<p>⑰ そして、100歳以上の方が何人いると思いますか？ 男性 12万人 女性 51万人 63万人いらっしゃるんですね。</p>	<p>⑱ 2014年度、人口が最下位の県は鳥取県なんですけど、その人口は58万人です。鳥取県民全員100歳以上で、おつりプラス5万人も多いんですよ。</p>	<p>⑲ だから、もしかしたらご生存なさっている可能性もあるんですねー。</p>	<p>⑳ ちょっと余談ですが、この総人口見てみて下さい。2010年1億2800万人。2060年に8600万人になっています。約4000万人が減少するんです。</p>
<p>㉑ 4000万人と言っても、ちょっとピンとこないかもしれませんけど、2014年度…東京都の人口が1315万人。神奈川県904万人。大阪府886万人。愛知県741万人。</p>	<p>㉒ これを全部足すと3846万人。つまり、あと45年後に、東京都・神奈川県・大阪府・愛知県にいる人達が人っ子一人いなくなるってことなんですよ。</p>	<p>㉓ 人口が減るメリットは、土地が余ってくる。満員電車に乗らなくてもいいってことなんですけど、デメリットは税収と生産人口が減ってしまうということです。</p>	<p>㉔ そして、8600万人のうち約半分が60歳以上の高齢者になっているのです。将来はどうなるかわからないんですね。大変な時代がきてしまうんですね。</p>
<p>㉕ 例えば、ご老人が1か月20万円ですと生活するとします。1990年。5人で1人を支えていたので、現役世代の負担は20万円÷5人で1人当たり4万円でした。</p>	<p>㉖ 2060年。1人で1人を支えるので、1人当たりの負担は20万円になってしまうんです。どうですか？支払いますか？ 「・・・」 そうですね。</p>	<p>㉗ ですから、1人あたりの負担を軽くするために、ご老人も10万円でご我慢して、現役世代も10万円の負担を我慢する。という時代がもうそこまできているんですね。</p>	<p>㉘ このような状況にならないために国は5年毎に年金改正を行っていたんですね。ご存知でしたか？ 「・・・」 そうですね。 1994年に国民年金60歳支給が65歳支給に。</p>
<p>㉙ 1999年には厚生年金が60歳支給が65歳に。2004年には、ご夫婦2人で約220万円貰っていた年金を約200万円に引き下げました。2009年には、税金の投入で保険料の調整をすることに決まりました。</p>	<p>㉚ 2011年。2年しか経っていないのに決まったことは、基礎年金79.21万円貰っていた年金を78.89万円に引き下げ、年間3200円カットになりました。ご存じでしたか？ 「・・・」</p>	<p>㉛ そして、2012年には、2000～2002年にかけて物価が下落し、下げなければいけなかったのにそのままにしておいた公的年金を3年かけて本来の水準に戻すことを決定しました。</p>	<p>㉜ 2012年4月からは基礎年金を78.65万円に。2400円カットになりました。2013年10月から77.85万円に。2014年4月にも5700円カットして77.28万円になったんですね。そして今年はどうと…</p>